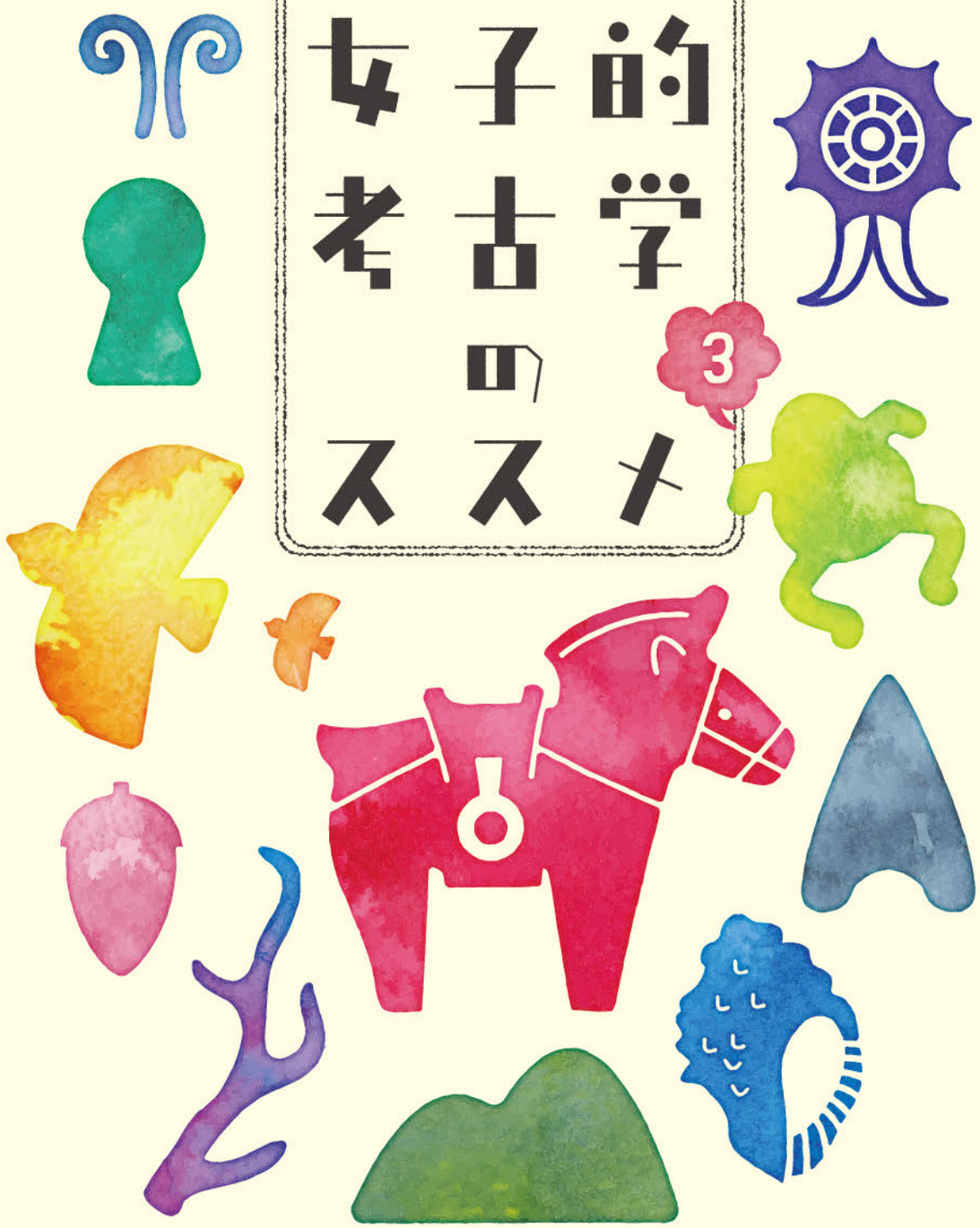
きゅーはく女子考古部 2017-2018

女子的考古学のススメ

3



KYUSHU NATIONAL MUSEUM
九州国立博物館

番外編
EXTRACURRICULAR ACTIVITIES

月一回の活動の他に、きゅーはく女子考古部として参加したイベント二つをご紹介！

福岡県大野城市で9月23、24日に開催された「第36回おおの山城大文字まつり」。

1日目の会場ステージに、女子考古部員（と顧問）が貫頭衣（かんとうい）と古代衣装を着て登場！貫頭衣は部員お手製です。華やかな古代ファッションショーでした。

ファッションショーにノリノリな岸本顧問!!

第36回おおの山城大文字まつり

福岡県広川町で11月12日に開催されたのは「第26回ひろかわ古墳まつり」。広川町の石人山（せきじんさん）古墳には、直弧文（ちょっこもん）という文様が彫られた石棺と、武装石人があるのです。女子考古部員もこれには大興奮！顔ハメパネルを作りました！

第26回ひろかわ古墳まつり

顔ハメパネルを作ったよ♪

DATA

九州国立博物館

文化交流展示室には考古資料がたくさん！年間300回の展示替えがあるので、来るたびに新しい発見がありますよ。

HP http://www.kyuhaku.jp/

住所 福岡県太宰府市石坂4-7-2（太宰府天満宮横）
TEL 050-5542-8600（NTTハローダイヤル8時～22時／年中無休）
開館時間 日曜日・火曜～木曜日
9時30分～17時00分（入館は16時30分まで）
金曜日・土曜日【夜間開館】
9時30分～20時00分（入館は19時30分まで）
開館時間は変更されることがあります。
休館日 月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）・年末

観覧料 ［文化交流展］大人 430円（220円）、大学生 130円（70円）

＊観覧料は変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
＊（　）内は有料の方が20名以上の場合の団体料金。
＊障害者手帳等をご持参の方およびその介護者1名、高校生以下、18歳未満、満70歳以上、キャンパスメンバーズ会員は無料です。展示室入口で証明書をご提示ください。詳しくはHPでご確認ください。

きゅーはく女子考古部 活動記録

5月 オリエンテーション ＆ 6月 太宰府巡り ▶p04

7月 うきは古墳巡り ▶p05

うきは市で訪れた 装飾古墳の文様まとめ ▶p06

8月 貫頭衣コレクション ▶p07

9月 古代染め ▶p09

10月 古墳巡り・土器洗い・接合 ▶p11

11月 古代食づくり ▶p13

古代食班特製！ 簡単レシピ 縄もんブラン ▶p14

12月 石器づくり ▶p15

1月 骨角器アクセサリーづくり ▶p17

きゅーはく女子考古部 部室 ▶p20

みんなの井きゅーはく女子考古部 ▶p03

顧問・副顧問のコメント ▶p02

オススメ文化財診断チャート ▶p19

ココがスゴイ！ 髙橋部員の古墳エッセイ 九州と近畿の古墳 ▶p21

古代ダンス ▶裏表紙

小学4年生部員 あおいちゃんの火おこし講座 ▶p22

「女子的考古学のススメ」
2018年3月3日発行

女子考古部冊子製作委員会
川村知子
奥村祥子
小石咲樹
花城七菜
沖ひろ子
西島亜木子（マネージャー）
山室翔子（マネージャー）
井上祥子（マネージャー）

デザイン・イラスト
川村晃子

発行
九州国立博物館

「きゅーはく女子考古部」とは

九州国立博物館が考古好きの女子のために発足した部活。約30名の女子が毎月1回楽しく活動しています。活動の内容は、古墳めぐりや古代食作りなど、部員がやりたいことを決めて実施。わからないことはきゅーはくの考古担当研究員がやさしく指導します。毎月の活動などはブログでも公開中！
http://kyuhaku.jugem.jp/

西島マネ　山室マネ　井上マネ

部員と一緒に楽しみました！

顧問・副顧問のコメント

活動を振り返って

顧問 岸本 圭

三年目を迎えたきゅーはく女子考古部。今年も個性あふれる部員が集まり、たいへん刺激のある一年となりました。部員は毎年入れ替わりますが、一年の活動ではものの足りず、遺跡めぐりや古代グッズ作成など、卒業生同士で自主的に企画をたてて親交を深めることもあるようです。また、私たちの活動をブログでみて、他の博物館などから「何か一緒にできないか？」という相談がたくさん寄せられました。そして、卒業生とともにファッションショーやワークショップなど、番外編の活動を重ねてきたことも大きな思い出です。こうしてきゅーはく女子考古部を通したネットワークが毎年広がりつつあることは望外の喜びです。これからもパワフルな展開を楽しみにしています。

副顧問 今井 涼子

早いもので、副顧問を拝命して三年が経ちました。初めは、古墳を見て「カワイイ！」と黄色い（？）声をあげる部員たちが不思議でなりませんでした。それお墓だよ、とついロに出してしまうこともしばしばでしたが、最近は「古墳カワイイ」もありかな、と思うようになりました。

「わからない」ということが「知りたい」にかわる時と「つまらない」になってしまう時の分かれ道はどこにあるのか。結局のところ、興味のあるなし、好き嫌いなのかもしれない。もしかしたら、「古墳カワイイ」は「わからない」が「知りたい」にかわるパワーを秘めたすごい言葉なのかもしれない。楽しげに、そしてパワフルに活動に取り組む部員たちを見ていて、そんな気がしてきたところです。

「カワイイ」と共感して仲間が増えて。あちこち出かけたり、体験したり。そうして、新しい扉をどんどん開いていってもらいたいと思います。

副顧問 川村 佳男

女子考古部の活動はライブに似ている。土器や石器を展示ケース越しにながめるだけでは分からない、大昔にモノを作り、使い、生きた人たちの日常に迫るライブ。しかも、それは女子の集まりゆえの華やぎに満ちている。

実際、女子考古部が行なってきた貫頭衣（かんとうい）（古代の服）作りや、古代食の復原だって、もっと本格的に取り組んでいる人たちは全国にたくさんいるだろう。でも、女子考古部のみなさんが自由に、はつらつと太古のモノ作りや暮らしに触れるときの楽しげな表情は、恐らくどんな専門家も及ばない。下は小学生から、上はお孫さんがいる女子まで。はじめは会ったことのない者同士でも、活動の回数を重ねていくにつれて、たがいに心を開いて支えあい、多様な個性が融合し、笑顔が自然と弾けていく。年齢も特技もいろいろな人たちがひとつの共同体で支えあって生きる。そんな光景が当たり前だったであろう昔が、彼女たちの賑わいを通してすぐ近くに感じ取れる。女子考古とは、そうした活力と笑顔あふれる「昔ライブ」なのだと思う。

副顧問 小嶋 篤

女子考古部員のみなさんのアグレッシブな活動には、いつも驚天動地です。私から解説する場面もありますが、女子考古部プレゼンツの活動でみなさんとともに勉強することも多々あります。

例えば、東名貝塚（ひがしみょう）での石器づくり。講師の先生方が手際よく剥片を製作する様を見て、「これ、いけるんじゃね？」と頭をよぎったのではないでしょうか。少なくとも、私はそう思いました。石鏃（せきぞく）は、石核からつくった剥片の端に細かな打撃を与えて刃部を加工、さらには逆刺（かえしなかご）や茎を製作します。この短文が実際には難しいことは重々承知していましたが、改めて実感すると、なかなかツライものがあります。なんとかつくりあげた石鏃は、剥片本来の刃部を活かした半天然人工物のようなもの。とある顧問より「縄文晩期のやる気のない石鏃」という銘を頂戴しました。我々はこのような石鏃が出土すると、「未製品（笑）」、「手際が悪い作例」、「作業手順を省略した、ある意味効率的な作例とも言えなくもない」と評するのですが、古代の人々の心に寄り添った評価も必要だなと思いました。女子考古部には、これからも体当たり企画で、アグレッシブに駆け抜けて欲しいと思います。

きゅーはく女子考古部

活動記録

今期の活動を月ごとにまとめました

5月 オリエンテーション MAY ORIENTATION

初日はオリエンテーション。最年少の小学1年生から、70代の大人女子まで28人が集まりました！

1・2期生の活動紹介と自己紹介の後、きゅーはく職員から博物館の「虫」講座。本物の文化財害虫を目の前に、興味津々の部員一同。博物館は文化財を害虫から守るため、様々な取り組みをしています。午後は、九博バックヤード&文化交流展ツアーへレッツゴー！3Dプリンタで再現した文化財と記念撮影したり、大型エレベーターに乗ったり、副顧問の解説で、東西の土偶の違いを学んだり。普段見られない博物館の姿に、大興奮！やりたい活動のアイデアもたくさん出て、今後がとても楽しみな初回となりました。

3Dプリンタで出力した文化財をさわる部員たち

きゅーはく女子考古部３期生始動！ドキドキの初顔合わせに、緊張の面持ちの部員たち。なんと長崎や大阪から！来ている方も。オリエンが終わる頃には、笑顔と賑やかな声が聞こえてきました☆

6月 太宰府巡り JUNE DAZAIFU TOUR

今回の太宰府ツアーは、観世音寺、学校院跡、蔵司（くらつかさ）、大宰府政庁跡、水城（みずき）跡をめぐるコース。最も印象に残ったのは、これらの史跡に残る「礎石（そせき）」と呼ばれる大きな石！湿気の多い日本では、地面の水分で木の柱がすぐに腐るため、地面と柱の間に石を置くのだそうです。観世音寺の隣には、お坊さんになるための儀式を行う戒壇院（かいだんいん）、役人の養成施設である学校院跡、政治を司る大宰府政庁跡、倉庫群があった蔵司地区、少し離れた場所に日本で最初の防衛施設ともいわれる水城跡。大宰府が政治・学問・宗教・軍事の中心であったことがよくわかります。身近にある史跡に、古代の息吹や知恵を感じる豊かな時間となりました。

観世音寺の塔の礎石。でかい！

きゅーはく周辺の遺跡を巡るツアーを開催！雨で肌寒いにも関わらず、太宰府の歴史を熱心に説明する小嶋副顧問と一緒にプチ遠足を楽しみました。身近にありながら意外に知らなかった太宰府のことを学んで、大満足！な一日でした。

みんなの井きゅーはく女子考古部

楽しい考古部ライフの中で見つけたとっておきの一枚をご紹介

a.洗濯日和（有田知世） b.ちょっと狩ってくる（市川葵） c.運命の瞬間（市川春枝） d.石人とはい!!チーズ!!（井口緑） e.古墳巡り中に抜けだして食べたかき氷（沖ひろ子） f.疲れたのに楽しかった（奥村志帆） g.火の名人！ここに！（奥村祥子） h.大文字祭り!!!（河﨑千佳） i.ステキな古代メイク（川村晃子） j.初自作！同心円文（^O^）（川村知子） k.古代の洗濯風景（小石咲樹） l.貴重な体験に大興奮！（小原範子） m.弥生の田んぼと対面！（髙橋衣里） n.大発見があったかも?!（田中玲子） o.夢の実現第一歩!!（出口玲子） p.わらび手文どらやき◎（利光亜希子） q.古代の食材エゴマ収穫（中村有美加） r.初めての火起こし体験（花城七菜） s.ゆかいな仲間たち！（廣眞梨子） t.いざ、石室へ（藤田恭子） u.ひんやり石室岩盤浴（藤田好美） v.古代食に向けて（前田育美） w.月岡古墳の石棺（安田夏子） x.今と昔の共演（山田真弓）

7月 うきは古墳巡り

JULY
ANCIENT TUMULUS
TOUR

古墳づくしの1日!!

7月は福岡県うきは市で古墳めぐり。九州北部豪雨の影響が心配されましたが、うきは市の担当者の方から「こんな時だからこそ来てほしい」と言っていただいて、無事決行できました。当日はとてもいい天気で、暑いくらいでした！

太宰府からうきはへの道中は顧問による古墳トーク。車窓から見える古墳を紹介してくれました。想像以上にたくさんあってびっくり。おかげで小高い丘がすべて古墳に見えるようになってしまいました。

着いてまず向かったのは珍敷塚古墳。顧問曰く「今日は調子がいい」。装飾の同心円文もカエルもくっきり見えて興奮しました！気温や湿度など、条件が揃わないとはっきり見えないそうです。

お昼ご飯を食べた後は、日岡古墳と月岡古墳。道路を挟んで二つの古墳があります。日岡古墳は装飾のある石室を上から見下ろすことができます。月岡古墳は墳丘の上にお社が建っていました。が、周りの木々に鶯がたくさんいて羽とニオイと鳴き声が…。石棺に加え、鏡十剣十甲冑が出土しているそうです。なんとあの仁徳天皇陵古墳と同じ組み合わせ！すごい人が埋葬されていたのでしょうか…。夢が膨らみます。

その後向かった楠名古墳ではみんなで石室に入りました。先ほどの日岡古墳とはまた違った石の積み方に興味津々。どうやって大きな石を積んだかはわかっていないんですって。

最後は塚花塚古墳。こちらは「心の目で見る系」の装飾です。目を凝らして、やっと大きな二重の蕨手文が見えた…気がします。

1日でたくさんの古墳を訪れて少し疲れましたが、大満足のツアーでした！

昼食は特別に用意していただいた古墳弁当と古墳バーガーでした。また、古代モチーフの雑貨を扱うお店にも立ち寄り、インテリアにもばっちりのかわいい古墳や埴輪に部員のお財布の紐が緩みっぱなしでした。

うきは市で訪れた

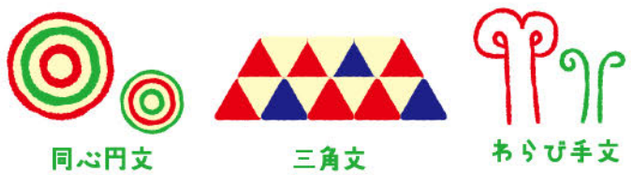
装飾古墳の文様まとめ

装飾古墳とは？　石室の壁面や石棺などに絵具や線刻で装飾文様を施した古墳のこと。福岡県南部と熊本県に多い。

珍敷塚古墳

塚花塚古墳

日岡古墳



民家のような珍敷塚古墳の外観

月岡古墳の石棺。神社のお社の中！

楠名古墳の石室。中はひんやり

塚花塚古墳の装飾を必死に見る部員

装飾文様が描かれたバーガー

うきはの古い街並み

見学についてのお問い合わせ
うきは市立吉井歴史民俗資料館
☎0943-75-3120

8月 貫頭衣コレクション

AUGUST
KANTOUI
COLLECTION

女子考古部のユニフォームともなるマイ貫頭衣を製作。装飾古墳や古代のアクセサリーなどにヒントを得たデザイン。ポーズを決めれば気分は古代人！

奥村祥子
奥村志帆

藤田好美

前田育美

沖ひろ子

中村有美加

川村知子

廣眞梨子

有田知世

高橋衣里

小原範子

川村晃子

市川春枝

市川葵

利光亜希子

藤田恭子

出口玲子

小石咲樹

安田夏子

河﨑千佳

古代風 おしゃれアイテム

部員オリジナルの古代風おしゃれアイテムをご紹介！どれも力作で考古学を愛する気持ちが伝わります♡

装飾古墳に描かれた文様ネイル←

↑古墳にわらび手文と同心円文が刺繍されたストラップ

→装飾古墳に描かれたヒキガエルのぬいぐるみ

珍敷塚古墳(うきは市)に描かれた文様が刺繍されたバッグ↑

前方後円墳と前方後方墳型のストラップ↑

モビールで作ったわらび手文のブローチ↑

古代アクセサリーの定番、勾玉←

ビーズで作った同心円文↑

←珍敷塚古墳(うきは市)に描かれた太陽の髪ゴム

珍敷塚古墳(うきは市)に描かれたヒキガエルのバッジ←

同心円文フェルトをつけたTシャツ↑→

装飾古墳に描かれたヒキガエルをイメージしたピン←

装飾古墳に描かれる連続三角文のストラップ↑

べんがら染めのストール↑

メンバー

班長
川村晃子　中村有美加　市川葵　市川春枝　奥村志帆　奥村祥子　小石咲樹　出口玲子　井口緑　安田夏子　川村知子

9月 古代染め

SEPTEMBER
DYEING

古代の人たちと同じ染料を使って、古代の人たちの気持ちになって、布を染めてみたい♡という部員の熱い想いから染めの活動は始まりました。

今回の会場は、弥生時代の遺跡が発掘された佐賀県の吉野ヶ里歴史公園。雲ひとつない快晴の下、竪穴住居にお邪魔して当時の人たちの生活を想像したり、甕棺墓（かめかんばい）のスケールの大きさに驚いたり、弥生時代の暮らしに触れた後、ついに染め体験！数々の染めの中から、弥生時代から使われていたとされる貝紫染（かいむらさきそめ）めとベニバナ染めに挑戦しました！

貝紫染めは、部員が福岡の海岸で獲ってきたイボニシ貝と、有明海で獲れるというアカニシ貝を使い、貝からパープル腺を取り出していきます。「どこ？」「どれ？」と言うくらい、パープル腺はひとつの貝からほんのわずかしか取れません。貝紫色の布は大変貴重だったのも納得です。みんなお揃いの柄にしたい！と、ステンシルの型を使って、マイ貫頭衣に蕨手（わらびて）文を描いていきます。描いた直後の色はくすんだ黄緑色。「本当に大丈夫？」と不安になりますが、日光にあてると美しく鮮やかな紫色に!!発見した古代人、すごすぎます。

続いては、ベニバナ染め。花びらを平らな餅みたいにして乾燥させた「紅もち」を水につけて柔らかくし、それを布に包んで「藁灰（わらばい）を煮て出た灰汁（あく）」を入れながら揉みます。紅もちから赤い色素が抜けて、茶色っぽくなるまで搾り出すため、みんなで交代しながらぎゅうぎゅう！腕が疲れる！揉むこと30分！色素を定着させるためのクエン酸を入れて混ぜながら、用意したガーゼを浸すと…あまりのピンクの鮮やかさに「ハタチのピンク」と部員に名付けられた色に♡水で洗って、天日に干して、完成です!!

古代の人たちの苦労とともに美しい色への情熱を肌で感じた一日になりました。

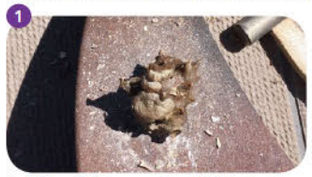
WORK 1 イボニシ貝の採取

イボニシ貝は、満月の干潮時が最も獲りやすいという情報をゲットし、染め班と部員有志は8月の猛暑日の夕方、福岡のとある海岸で獲ってきました！イボニシ貝は波打ち際の岩場にくっついています。うじゃうじゃいるフナムシに「キャー！気持ち悪いー！」と叫びながら、彼らを追い払いつつ、岩にへばりついている2-3センチほどの小さなイボニシ貝を見つけていきます。

フナムシが苦手で貝獲りを断念する者、フナムシがいることなんてお構いなしに積極果敢なハンターのようにイボニシ貝を獲りまくる者、獲った貝で布に模様を描くのに夢中な者、大量の汗をかきながら部員の子どもと遊ぶ者…そこには弥生時代のイボニシ貝採取と変わらないであろう賑やかな光景がありました。

WORK 2 Let's 貝紫染め

材料 イボニシ/アカニシ
道具 ピンセット、かなづち、筆、すり鉢、すりこぎ、染める布

1


まず命に感謝しつつ、貝の殻をかなづちで割る。強烈な磯の匂いは我慢！

2

イボニシ、アカニシともにパープル腺という蛍光黄色？黄緑？のような細い腺が入っているので、これをピンセットでとる。

3

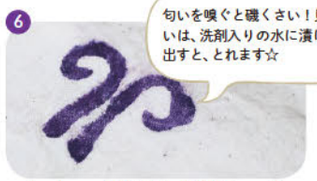
容器にパープル腺だけを入れて、塩水を足してすり潰す。粘り気が出るまで、ゴリゴリ。

4

さらに塩水を入れて薄めたら、染料の完成！塩分濃度は3%くらい。

5

布に模様を描く。描いた直後の色は、くすんだ黄緑色。

6


日光にあてるとだんだん色が変わってきて、最後は美しい紫色に！

吉野ヶ里歴史公園
佐賀県神埼郡吉野ヶ里町田手1843
☎0952-55-9333

開園時間　4月〜5月　9:00〜17:00、6月〜8月　9:00〜18:00、
　　9月〜3月　9:00〜17:00
休園日　12月31日、1月の第3月曜日とその翌日
入園料　大人(15歳以上)　420円(280円)、小人(小・中学生)　80円(40円)、
　　シルバー(65歳以上)　200円(200円)、幼児(6歳未満)　無料
　　※(　)内は団体料金
　　※団体料金は小学生以上の方20名以上から適用となります
　　※平成30年3月31日まで。4月1日より入園料変更予定
HP　http://www.yoshinogari.jp/

再現された竪穴住居に入室

鳥居の原型?!

弥生時代の墓地、甕棺墓

ベニバナ染めに使う紅もち

ひたすら揉む

染まった！ハタチのピンク！

メンバー

班長
沖ひろ子　有田知世　藤田恭子　馬場衣里　小原範子　花城七菜　田村亜希子　山田真弓　安田夏子　清永由美子　田中玲子　河崎千佳　藤田好美

10月 古墳巡り 土器洗い・接合

OCTOBER
ANCIENT TUMULUS
TOUR

10月は福岡県桂川町（けいせんまち）のコノマ遺跡群で発掘体験！の予定でしたが、あいにくの雨…残念ながら発掘体験は中止となり、この日は古墳見学と土器洗浄、接合体験になりました。

午前中は小雨の降る中、古墳見学。最初に訪れた天神山（てんじんやま）古墳は、全長68ｍもある前方後円墳です。ぐるっと回ってみると、その大きさと形がはっきりわかります。この古墳は、土を突き固めながらミルフィーユのように何層にも重ねて造られていて、一部そのしましまの積層を見ることができました。続いては、ホーケントウ古墳。この聞き慣れない言葉は、墳丘の上に建てられた密教の「宝篋印塔（ほうきょういんとう）」がなまって「ホーケントウ」となったそう。こちらも前方後円墳だけど、一角に家庭菜園があったり、お墓があったりと、生活感あふれる景色となっていました。

そして午後は王塚装飾古墳館で、コノマ遺跡群から発掘された土器のかけらの洗浄と接合体験です。

洗浄は、土器にこびりついている泥を、大きな歯ブラシのようなもので叩いて落とす作業です。土器を傷つけないように、最初は恐る恐るちょんちょんと、しかしそれでは泥が落ちず、ついムキになりそうになる自分を抑えつつ、あくまでも慎重に…何度か繰り返すうちに、段々コツがつかめてきて、気がつけば黙々と作業に没頭してしまいました。

一方接合は、言わば立体パズル。裏表の模様を見ながら上下左右に重ねてみて、ああ違ったと別の破片を手に取って、をひたすら繰り返します。たまに横で接合に成功した人が歓声を上げると、周りは自分もその感動を味わわねばと奮起し、こちらもしゃがみこんで黙々と作業に没頭する部員の輪ができあがっていました。

半日体験しただけですが、つくづく、考古学って根気のいる仕事なのだなあ、と実感した一日でした。

WORK 1

土器洗い

道具　毛がやわらかいブラシ

発掘で出てきた土器には土が付いていますがそれを落とす作業が「土器洗い」。
土器を傷つけてはいけない。しかし汚れはきちんと落とさなければいけない。なかなかコツと根気がいる作業なのです。

ボンボン叩いて短くなったブラシ！長年使いこまれた様子に驚き！

●土器の洗い方
土が落ちやすいように水につけた土器をブラシで軽くボンボンと叩いて土を落とす。
土器はやわらかいのでこすらない！
ぴったり接合できるように断面まできちんと土を落とす。

WORK 2

接合

土器は完全な形で見つかることは珍しく、割れてしまっていることがほとんどです。それを元の形に戻す作業が接合です。でも、必ずしもすべての部分がそろっているとは限りません！

パズルみたいで楽しい！

●接合の仕方
表と裏があるので、すべて同じ方向に向けて置く。ひとつの土器でも部分によって色や模様や厚さが微妙に違うので、そこを手がかりにする。
合えばぴったりはまる。超気持ちいい！
合ったところはチョークで印をつける。

体験したのはここまでですが、本当はこのあと、接着剤で破片をくっつけ、破片がない部分に石膏を入れて元の形に復元します。

古墳のそばに神社が

天神山古墳は大きかった

発掘調査中のホーケントウ古墳

これが宝篋印塔！

王塚古墳。中には美しい装飾が

王塚装飾古墳館
福岡県嘉穂郡桂川町大字寿命376番地
☎0948-65-2900　FAX 0948-65-3313

開館時間　午前9時～午後4時30分
休 館 日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）
　　12月29日～1月3日
入 館 料　大人　320円（270円）　中高生　160円（120円）
　　小学生　100円（80円）
　　※消費税を含む。
　　※（　）内は20名以上の団体料金
Ｈ　Ｐ　http://www.town.keisen.fukuoka.jp/ouzuka/

メンバー

班長
奥村志帆　市川葵　市川春枝　奥村祥子　前田育美　有田知世　澤井澄江　藤田恭子

11月 古代食づくり

NOVEMBER
MAKING
ANCIENT MEALS

古代の暮らしに興味いっぱいの部員たち。今回は板付遺跡で古代食に挑戦です。板付遺跡は日本で最も早い時期に稲作が行われていた場所。古代食を作る意欲もあがります。調理する炉の石と薪の調達から準備はスタート。ドングリの見分け方を習得して木の実を採集し、古代種の大豆（ツル豆）の収穫の機会にも恵まれ、部員で手分けして準備しているうちに楽しみな古代食材が揃いました！

メニューは採集したマテバシイ、むかご、古代大豆を入れた古代米ご飯（赤米・緑米・黒米の3色♪）、エゴマの実のふりかけ、汁物は貝汁と猪汁の二種。使う野菜は古代から食されてきた大根やきのこ、里芋など。デザートに煎り木の実と「縄もんブラン」ディップ。炉作りからスタートして遠賀川式土器のレプリカで煮炊き。古代人に近づきます。

当日は強風にやられ、火起こしに大苦戦！「今日は食べられないの?!」と、部員は顔面蒼白。古代人の苦労を共有できたかも（笑）。

ピンチはあったものの古代食は絶品。お米は土器でふっくら、古代の塩、藻塩で味付けした古代汁はそれぞれの出汁が効き、旨味たっぷりで温まりました。初めて食べる古代大豆は小粒だけど豆の香りが凝縮。縄文時代から管理栽培され、今の大粒大豆に至ったと思うと古代人の苦労が身にしみます。

準備から苦戦しながらも食事に向かって一致団結した部員たち。その姿に古代の人々の姿が見えた気がしました。協力なくしてできないことばかりだけど、どんぐりスポット探し名人や火の管理名人がいたり、大人が手間取る小さな豆を子供部員が簡単に取っていたり・・自然と役割分担ができていてそれぞれが活躍してる。古代の集落ってこんな感じだったのかなと思いを馳せた活動でした。

現代人にも古代食材は美味しくヘルシーでオススメです♪

古代食班特製！

簡単レシピ

縄もんブラン

材料
- ●マテバシイ（一番手に入りやすく、アクも少ないどんぐりです）
- 適宜
  - ※砂糖
  - ※生クリーム
  - ※バニラエッセンスや洋酒少々
  - ●クッキー（土台）

マテバシイを選別。水に浸けて浮いたものは虫が食っているので、沈んだものを使用。

殻を剥く。乾かして殻が乾燥した状態で。軽く煎ってもよい。にんにく潰し器を使うとパリンと２つに割れて簡単に剥けます。

アク抜き。多めの水でやわらかくなるまで煮、茹で汁は捨てる。一緒にお茶のティーバッグを入れると効果的♪

煮あがったマテバシイをマッシャーなどで潰し、※を好みの甘さ、硬さになるよう適宜入れ調整。ハンドブレンダーやフードプロセッサーでなめらかに仕上げる。

完成！

縄Mont Blanc

クッキーにペーストを盛ったら完成！上に煎ったマテバシイを乗せても。カシューナッツを乗せると勾玉風でかわいいです♪

拾ってきた石で炉づくり

みんなで集めた薪

板付遺跡で収穫した古代大豆

ごはんにマテバシイを投入

猪汁でポカポカ

完成！おいしかったー！

小学1年生部員による

どんぐりの見分け方講座

板付遺跡弥生館
福岡市博多区板付3－21－1
☎092-592-4936

開館時間　9:00～17:00（入館は16:30）
休 館 日　12月29日～1月3日
入 館 料　無料

メンバー

12月 石器づくり

DECEMBER
MAKING
AN ARROWHEAD

石器が作りたい！ということで、12月は縄文時代の遺跡がある佐賀市東名（ひがしみょう）遺跡での活動でした。

最初に東名遺跡の資料館で説明を受けました。湿地性貝塚は、植物性のものが多く残るのが特徴で、縄文時代の編みかごの約60％が東名遺跡で出土しているそうです。前月に古代食を作ったこともあり、どんぐりなど縄文人の食べものに想像が膨らみました。

石器には石を打ち欠いて作る打製石器と磨いて作る磨製石器がありますが、今回挑戦するのは打製石器。石器作りは、とんぼ玉職人の山下さんと多久市教育委員会の岩永さんの2人の名人に教えていただきました。使った石材は打製石器によく使われる黒曜石とサヌカイト（安山岩）。まずは名人による石材の荒割りデモンストレーション。割る石に合うハンマーの種類や叩く角度を瞬時に判断するそうです。荒割りの段階でできた破片もリンゴの皮が薄く剥けるくらいとても鋭くてびっくりでした。

午後からは、荒割りでできた破片から自分たちで矢じりを作りました。名人たちは簡単にしているように見えても、実際に体験してみると完成目前で割れたり、きれいな形にならなかったりしました。苦戦しつつ、名人に手伝ってもらいつつも、何とか形になったようです。

「作ったからには使ってみたいよね！」と思いましたが、初心者が作った矢じりを矢にするのは難しいということで、名人に弓矢を用意していただきました。朝の集合時は小雨が降っていたのでできるか心配でしたが、午後には上がり、外で弓矢体験をすることができました。ほぼ実物大のイノシシの的に向かってみんなで矢を射ましたが、なかなか矢が飛ばず…。古代の人はすごいなぁと改めて実感する一日となりました。

WORK 1

石器の作り方

材料 道具　原石
石割り用の石、軍手

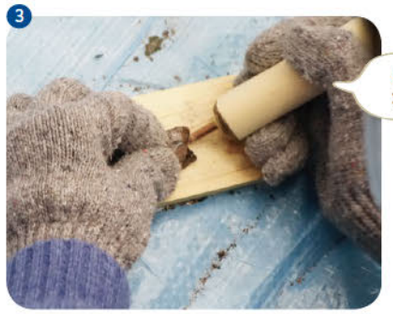
1

原石を石やクジラの歯などで割る（荒割り）。
どの道具を使うか、叩く場所、角度を見極めるのが大切。
この時に石器にできる部分をなるべく多くするのがプロの技！

2

割った破片から石器として加工できそうなものを選ぶ。
薄くて平らなものがいいそう。
完成形に近い形のほうがやりやすい。

3



小さめの石（砂岩がよいそう）でたたいたり、鹿の角（今回は鋼製の道具）などで押し割ったりして形を整える。先のほうを折らないように慎重に…理想は全体の形がなめらかで、稜線がまっすぐになること。

4

佐賀市教育委員会の西田さんによる説明

東名遺跡で出土した編みかご

石器名人山下さん（右）と岩永さん

黙々と石器をつくる部員たち

黒曜石の破片でりんごの皮がむける！

東名縄文館
佐賀市金立町千布（巨勢川調整池内）
問い合わせ先　佐賀市役所　社会教育部
文化振興課　文化財一係・二係
☎0952-40-7368

開館時間　火～日 10:00～16:00
休 館 日　毎月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）
入 館 料　無料
H　P　https://www.city.saga.lg.jp/main/813.html

メンバー

班長 利光亜希子　市川葵　市川春枝　小原範子　奥村志帆　奥村祥子　出口玲子

1月 骨角器アクセサリーづくり

JANUARY
MAKING
ANTLER ACCESARY

最後の活動テーマは古代アクセサリー作り。古代のアクセサリーといえば勾玉、ガラス玉の首飾りや貝輪、土製の耳飾りなどいろいろあります。前回訪問した東名遺跡では水玉文様を描いた鹿角製装身具を見学したところでした。

今回は九博で鹿角を使ったアクセサリー作りに挑戦。普段手にすることがない古代材料が使えると聞き、テンションがあがります。

鹿角は古代から江戸時代まで様々な道具や装身具として使われてきた材料の一つ。顧問の骨角器レクチャーから始まります。鯨の骨や鮫の歯など地域ごとに多様性があるのも特徴だそう。今回使う鹿角は福岡で獲ったもの。どんなきゅーはく女子考古部オリジナルができるか楽しみです。

いよいよ製作開始！ノコギリは木と同じように切り進められるけど、切れ目を入れたものに力をかけても最後にバリンと折れたりはしません。刃物で彫ろうとすると硬いしすべる。でも班員が一日水に漬けたものをヤスリや砥石で擦ると簡単に削れる。木材に慣れた現代人には不思議な感覚。そういえば角ってタンパク質だった…。そんなこと古代人は知らないけど、角の特徴を理解して活用していた古代。石器や鉄器で小さな鹿角パーツに細かい文様を彫り込んでいた古代人の技術の高さに言葉がでません。

とはいえ、できあがったアクセサリーは我が女子考古部員ならではの鹿角の魅力を引き出した力作揃い！鹿角のどの部分を使うかもセンスの見せ所。表皮を取り磨きあげたピアス、古代の紐結いと組み合わせたストラップ、子供部員は側面をリズムよくヤスリ棒で削り花弁の様なネックレストップを作っていたり。中には古代人ばりに文様を彫る強者も。皆の古代人レベルがあがっているのがわかる活動でした！

WORK 1

鹿角アクセサリーの作り方

材料 鹿の角
道具 糸のこ、棒ヤスリ、砥石、サンドペーパー

1

鹿角を切る。

2

加工しやすくするため一晩水に漬ける。

3

中の髄の部分を取る。（棒ヤスリが便利）

4

形を整える。（砥石やサンドペーパーで）

5

模様を入れる。（三角ヤスリやハンドドリル、クラフトカッターを活用）

6 完成！ 紐を通して完成☆
身につければあなたも古代人！

今回使った鹿の角

班長による作り方レクチャー

鹿の角を使って、角の中の髄を取る

金属の道具でもなかなか…

磨けば磨くほど白くなる

作った作品の見せ合いっこ

きゅーはく女子考古部
部室

部員にアンケートをとりました!
女子考古部らしい回答です!

Q1. 埋葬されたい古墳は?

●王塚古墳
○珍敷塚古墳
○チブサン古墳

【回答】竹原古墳／井寺古墳(熊本)／楠名古墳(苛酷な古墳が多いなか、とても快適だったので。でも正直なところ、古墳に埋葬されなくていい。暴かれたくない)／珍敷塚古墳(初めて訪れた装飾古墳ですし、壁画の模様が大好きなので)／童男山古墳のボス／ヒャーガンサン／浮羽の古墳めぐりの際に中に入って寝転んだ古墳(名前忘れました)涼しくて気持ちよかったからそこがいいなー他の古墳は暑い！／高松塚古墳／鬼塚古墳／断夫山古墳(名古屋市)永遠に寝るならやっぱり地元！(心は永遠に名古屋市民です！)／石屋形。線刻壁画の古墳。すみません。思い出せません。／四隅突出型墳丘墓／箸墓古墳／西都原古墳群(ご近所さんがいっぱいで寂しくなさそう)／双六古墳

Q2. 棺に一緒に入れてほしい副葬品は?

●鏡
○勾玉　○埴輪

【回答】遮光器土偶／輸入で入手した美しい色の硝子玉首飾り(朝倉の山田１号墳出土品)／国越古墳(熊本)の直弧文を彫り込んだ鹿角製装具／馬形埴輪(高価なものは、墓泥棒に狙われるので嫌だ)／神獣鏡／刀／四神十二支文鏡／火焔型土器／お気に入りの洋服／ヒスイの勾玉／たくさんの人物埴輪／青銅鏡／ガラスのアクセサリー(ガラス製品を見ることが好きなので)／管玉／勾玉のついた首飾り／銅剣／花／銅鏡／きれいな翡翠の勾玉／金製の馬具(私は馬じゃありませんが、古賀市の船原古墳の発見はわくわくしました)／土偶

Q3. 玄関に飾るならどの埴輪?

●動物形埴輪
○踊る埴輪
○武人埴輪→「もう飾っている」という人も!

【回答】犬形埴輪／水汲みの女性の埴輪(筑波出土品)／柿岡西町古墳(茨城)の鹿形埴輪／はに丸くんみたいな、武人の形象埴輪(等身大)。(魔除けに良いと思うのです)／馬の埴輪／鳥形埴輪(でも埴輪よりも土偶を並べたい…)／踊るハニワ(これを見たらみんなにっこりしてしまうはず)／動物のハニワ／東京国立博物館の馬形埴輪／人型埴輪(踊り様)／見返りの鹿／寅さん埴輪／武人埴輪が既にいますが、二体目は踊る埴輪。／鍬を持った農夫の埴輪／かわいい犬の埴輪

Q4. ドライブ(デート)に行くならどの遺跡?

●吉野ヶ里遺跡
○妻木晩田遺跡

【回答】焼ノ峠古墳／五郎山古墳(一緒にハゼの実拾いしたい)／大野城(夜景デートスポットです♪)／吉野ヶ里遺跡(走りごたえありました。ただ、家族連れにはとってもいいと思うけど、デートはどうなのか？疲れはてて険悪になりそう…／吉野ヶ里遺跡。好きな遺跡なので、考古部で勉強したことをしゃべりすぎて、彼氏に引かれそう(笑))／宮地嶽神社から宗像大社までのルート／西都原古墳群／行ったことのない古墳群にいきたい！宮崎とか！／仁徳天皇陵／三内丸山遺跡／遺跡ではないけど熊本県立装飾古墳館／水城跡／奈良県明日香村の古墳群／元寇防塁を端から端まで辿る／柳井茶臼山古墳(眺めが良い)／荒神谷遺跡／原の辻遺跡／土井ヶ浜遺跡／糸島の平原遺跡行ってみたいなぁ

Q5. 身に付けたい装飾文様は?

●連続三角文　○同心円文　○かえる

【回答】直弧文／双脚輪状文(目玉おやじみたいでカワイイ)／三角文／月／太陽／動物の文様／幾何学文様／水鳥／わらび手文／どれも素敵ですが、角ばった文様より丸みのある文様が好きです。／銅鐸の流水文／木葉文／珠文

Q6. 自分の前世はどんな姿だったと思う?

●土器などのモノ作り　○狩人　○巫女　○農耕民族

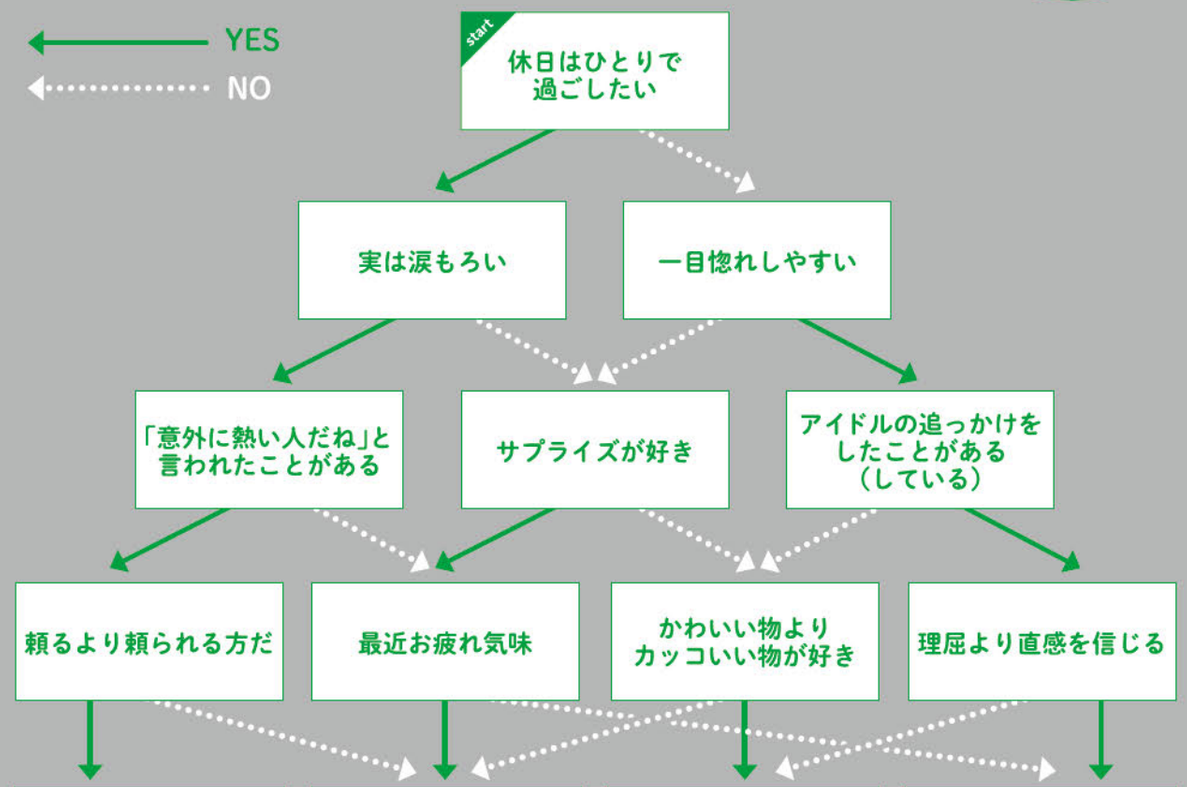
【回答】木を切って住居をつくっていた／黒曜石の交易キャラバン隊！／普通に、稲作農耕民族してたと思う／土器や銅鐸などのモノ作り／犬達を引きつれて山で山菜採ったり、海で釣り！／村一番のおしゃれガール／巫女様のお手伝い　イケメン探しの散歩に行ったり、火おこしの邪魔したり、土器壊したり、貝塚に落ちたり、いつも仕事をサボってた／犬を連れて獣を狩っていた／食いしん坊なので、食糧の採集と保存食づくりを頑張っていた！かもしれない／火起こしをしていた／農民(現在が農学歴でもあるし)／樹木だった様な気が…。古代の人であれば、臆病なので猟とか未だ見ぬ地へ旅立つ様なことはしなかったと思います。／山で狩り(泳げないので海で釣りは無理、食事の支度など家事は無理なので)／卑弥呼様のお告げを書き記す侍女／農耕民族で、のんびり大家族で暮らしていた／古墳の盗掘者／土器作る人／火焔土器を作っていたが失敗ばかりしていてみんなに馬鹿にされていたかも…／機織か、木簡を使ってるお役人さん／装飾文様を描く人／なにかを作成していた

あなたにぴったりのタイプはこれ!

オススメ文化財診断チャート

きゅーはく女子考古部オリジナル九博で会える古代守護人編

女子考古部員が顧問・副顧問にインタビューして作りました。



岸本顧問オススメの「石人(せきじん)」タイプ

九州に特有の古墳文化といえば、この石人。武器を携え悪者はくるな！と言わんばかりに、重量感たっぷりのいでたちで墓を守る。岸本さんが大好きなチャームポイントは、デカイ体に似つかわしくない、埴輪に近い素朴な表情をしているところ。ガッチリ系、ツンデレ、ピュアなハート好きにオススメ。

今井副顧問オススメの「土偶」タイプ

今井さんのオススメは、体操座りをしている土偶。その姿はまるで川の土手に座っているかのよう。哀愁漂う後ろ姿に、なんとも心が癒される。きゅーはくには、全国の多様な土偶が展示されている。女性らしさがデフォルメされた西の土偶に対し、神秘的な姿で祈りを捧げる東の土偶。美を追求したい人、癒されたい人にオススメ。

川村副顧問オススメの「俑(よう)」タイプ

日本の埴輪に似た中国の人形。死者があの世で幸せに暮らせるよう、お墓の中に一緒に入れて、悪霊などから守る。ヒト形だけでなく、家畜や犬、馬、牛車(昔の車)など、種類が実に多彩。怪獣好きの川村さんのイチオシは、異空間から来たような強烈な形相の鎮墓獣(ちんぼじゅう)。動物、フィギュア、乗り物、さらにはヒップホップ(俑=Yo!)好きにもオススメ。

小嶋副顧問オススメの「鬼瓦」タイプ

きゅーはくのスタメンであり、鬼瓦界でのイケメン。一人屋根の上にたたずむハードボイルドキャラでもある。小嶋さんは、鬼瓦の影があるところがお気に入り♡展示でライティングする時に必ず影ができ、うれいを帯びた表情に自分を投影する。一年中、日差しと雨風にさらされるドMな人にオススメ。

※展示されていないこともあります。HPでご確認ください。

◆髙橋部員の古墳エッセイ◆

ココがスゴイ！

名古屋で育ち、大学は奈良。
近畿と九州の古墳の違いをつれづれに…

九州と近畿の古墳

一口に古墳といっても、全国全部同じじゃない。だから、面白い！

髙橋衣里

九州の古墳

スゴイ!ポイント その❶

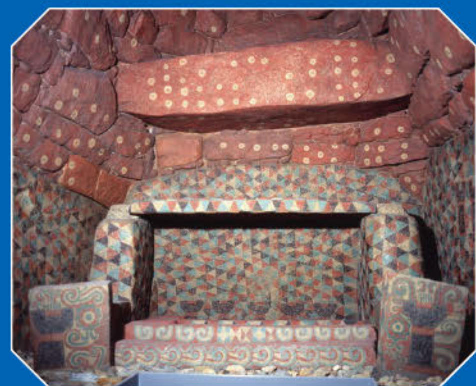
装飾古墳の壁画(珍敷塚古墳等)

九州の古墳は石室内がハデだなぁ…というのが第一印象。近畿は終末期のキトラ古墳や高松塚古墳にならないと壁画を持つ古墳が出てきません。
ただ、朱などの赤系統の色が多用されているのは初期の近畿との共通点かも。やはり再生とかの思想は共通していたのかな。

スゴイ!ポイント その❷

石屋形(王塚古墳等)

奈良では見たことがない石室の構造です。
石室に石枕があったりするので、棺を使用しない埋葬方法も存在したのかな、と考えると、意外と古代九州人って「ケチ？」と思ってしまいました。その分、石室にお金使ってますけど。



王塚古墳内部の装飾　写真提供:王塚装飾古墳館

近畿の古墳

スゴイ!ポイント その❶

とにかく数が多い！

古代の日本の中心地なだけあって大小さまざまな古墳があちこちに。ちょこっと歩けば、古墳にあたる、状態。

奈良県桜井市。古墳がいっぱい

スゴイ!ポイント その❷

古い時代の古墳が多い！そして石室が真っ赤！

近畿は古い時代の石室に朱をぶちまけて真っ赤にしてる事例が多いです。逆に、九州は古い時代の古墳が少ないこともあって、目立たない。

スゴイ!ポイント その❸

じつは排水溝完備！？(石舞台古墳)

明日香村石舞台古墳の床面に石室から入り口に続く溝があります。実は、排水溝完備なんです。
近畿には比較的多い事例とのことですが、九州にはないんだとか。石舞台古墳はよく見ると墳丘の斜面に調査当時のまま(と聞いた)貼石が顔をのぞかせているのが、個人的におススメポイントです。

石舞台古墳の貼石

小学4年生部員 あおいちゃんの火おこし講座

市川葵

まさつほうで火をおこす。

ひつ要な道具
火きりぼう(きね)
火口
火きり板

①火きり板のあなの中に火きりぼうをセットする。(なるべく水平にする)(あなはなるべく浅く)
②火きりぼうを回転させてひもをまきつける。
③横板をおすと火きりぼうが回転するのでひもがぼうにまきつくリズムにあわせて横板を上下させる。
④うまく回転のリズムにのって、できるだけ早く回転させると木のこながけずれまさつ熱でけむりがでてくる。
⑤木のこながじゅうぶんたまったら転く息をふきかける。
⑥用意していた火口の上に火種をうつし、息をふきかけ火種を広げる。
⑦火種を火口でくるんで息をふきかけ火口の中で火種を育てる。
⑧火種が消えないように転く息をふきかけながら、火口をさらにをさらにたきつけ用の木くずなどにくるむ。
⑨火種がたきつけにうつるように少し強くをふきかける。あるいは、はしをもってぐるぐるまわす。
⑩火種がたきつけにうつるときにけむりがたくさんでて息苦しいがめげずに息をふきかける。
⑪たきつけに火がおきると一気にもえ広がるので、すぐにたき火などに火をうつす。

つかれたけど楽しかった！これはあきない。

火がついた！

火口
火口＝ほくち

<point>
火口とは…最初に火をもえ上がらせるために用いる物。
まさつとは…こすること
火種とは…火をおこすときもとにする火。

感想

つかれたけど楽しかった。これはあきない。たとえば、今日あきても次の日にとてもやりたくなるそういうものです。まさつほう以外でも火打石でも火はおこせる。火はとても大切なものです。今はコンロですぐにつくけど、昔はたいへんだったんですね。みなさん、火遊びはやめましょう。きけんです。火はやけどをします。さわったらいけません。火はやくそくごとがたくさんあります。火おこしもほどほどにしましょう。火事になったりきんにくつうになります。きをつけましょう。火事の原いんは他にもあります。マンションでやきいもをしたり、花火をしたり、あるいはマンションでひりょうをつくるのもいけません。そこでみなさんに一問デデン！

クイズ
昔の人は火を朝昼夜、ごはんのたびに火をおこしていたのでしょうか？
①朝昼夜 毎かい
②一日一回
③一週間一回
④一日三十五億回！

活動発表

きゅーはく女子考古部 presents 「古代の宴へようこそ！」へ向けて

きゅーはく女子考古部3期生最後の活動は、部員が一般のお客様に考古学の楽しさを伝えるイベント「古代の宴へようこそ！」。内容は、弓矢でイノシシを狩る体験やどんぐりを使ったビンゴなど。2月の活動では、部員一同力をあわせて準備に励みました。

弓矢体験用の的になるイノシシを作成中

「どんぐりビンゴ」の整理券